



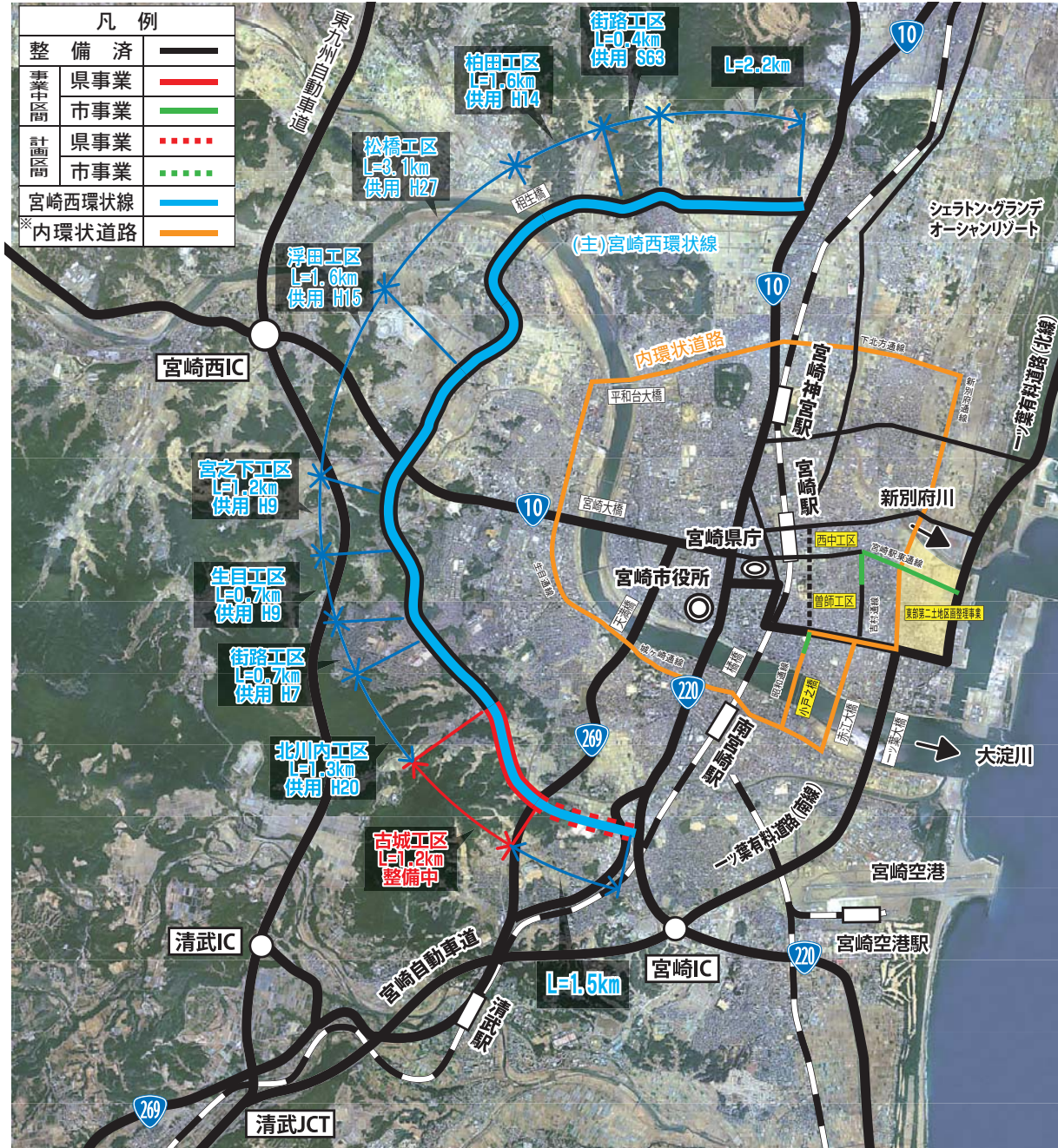
都市内道路の整備

宮崎西環状線や内環状道路の整備

宮崎市街地に流入する交通は、国道10号、220号、269号などを通過し、市内中心部に集中するため、特に朝夕の混雑は著しいものがあります。このため、これらの道路を市街地郊外で環状的に結びつける主要地方道 宮崎西環状線の整備を進めております。宮崎西環状線は中心部へ流入する交通を分散し、通過交通を排除することで、交通混雑を緩和するとともに、周辺地域との連携を強化することを目的として計画しており、現在は古城工区において整備を進めています。

また、中心市街地をドーナツ状に囲む内環状道路として、円滑な交通の流れと快適な都市環境を確保するため整備を進めており、このうち、宮崎市が整備を行った宮崎駅東通線の西中工区の約0.4kmが令和2年3月より供用され、引き続き未整備区間の整備を進めています。

さらに、昭和通線については、宮崎市による小戸之橋(L=503m)の架け替え工事が完了し、令和3年4月より供用され、引き続き宮崎市が旭通線との交差点までの区間の整備を進めています。



※「宮崎市圏総合都市交通計画調査 総括報告書 平成17年3月」より引用



都市内道路の整備

延岡市内における環状道路等の整備



延岡市内の道路の骨格は、主要幹線道路の国道10号、国道218号であり、両国道は市の中心部から放射線状に伸びています。

国道10号に並行して須崎中川原通線や安賀多通線等が走っていますが、朝夕の通勤時をはじめ、中心部に流入する車両により交通混雑が頻発しています。

これを緩和・解消し、快適な都市環境を実現するため、愛宕通線、富美山通線、須崎中川原通線からなる環状道路(L=約10km)において、県と延岡市で整備を進めています。

平成24年度には、古川・多々良工区が開通し、平成29年度には中川原工区が開通しました。現在は、安賀多通線(構口工区)において、県が整備を進めています。

